

様式 4

令和 5 年 1 2 月 1 5 日

豊田市長 太田 稔彦 様

前林地域会議  
会長 杉浦 正士

## 答 申 書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問を受けたことについて、下記のとおり答申します。

### 記

#### 1 諮問内容

第9次豊田市総合計画に掲げる本市のまちづくりの方向性である「(仮称)ミライ構想」のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造について

#### 2 答申内容

別紙のとおり答申します。

## ◀前林地域について▶

前林地域は、豊田市南西部に位置し、南北に逢妻女川が流れ、緩やかな丘陵地には田園地が広がっています。明治以降から農業が栄え、高度成長期に自動車関連企業が進出し、工場地が形成されました。現在は、豊かな緑を残しつつ、自動車関連企業の工場をはじめ、様々な物流企業も立地し、交通網の整備が進められています。

地域内の11の自治区では、自治区ごとに歴史や文化を継承する伝統行事やわくわく事業を活用した活動が非常に活発に取り組まれています。

一方で、高齢化の進展等に伴い、買い物や移動といった生活支援が必要な住民の増加や、後継者不足による耕作放棄地の増加、物流企業の増加に伴う交通安全への課題など、地域課題も変化しています。

こうした背景・課題等を踏まえ、令和5年6月に「商業機能の強化及び商業を起点とした地域の活性化促進」、「交通安全対策の強化・促進」、「防災対策の推進」について市へ提言しました。

## ◀答申内容▶

前林地域会議では、「第9次豊田市総合計画の（仮）ミライ構想」におけるめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造について、グループワークを中心に協議を行いました。主な意見については以下のとおりです。

### （1）全体共通の意見

#### ①表現・言い回し等に関すること

「つながり」や「愛着」「子ども」など、これからより大切にしていけるべきテーマがちりばめられているが、「カタカナ言葉」や「言い回し」に馴染みがないものも多く、市民に理解され難い。こうした計画こそ「市民目線」が大切であり、わかりやすく、親しみやすい（理解しやすい）表現にする必要がある。

#### ②過去の総合計画の成果と9次総合計画のミライ構想へのつながり

特に8次総合計画における成果や残された課題の分析、新たな課題（コロナ禍を経て見えた課題など）への考え方などが示されないまま、9次総合計画の方向性を示された印象を受ける。過去の総合計画の分析結果や新たに見えた課題等を整理し、「9次総合計画のミライ構想」へのつながりを明確にする必要がある。

### ③具体性について

「ないものを補う」「多様な主体」「足し算とかけ算」など、資料を読むだけでは具体的にイメージすることが難しい内容が多く見受けられる。要所に具体的な例示を示すべきである（現時点で考えているもので構わないので）。解説がなければわからない資料では、広く市民に理解してもらう・意識（イメージ）してもらうことは難しい。

## (2) めざす姿について

### ①良いと感じた点

- ・豊田市は広域であるため、一律的な考え方や方向性を押し付けることはできない。そういった中で、「多様な地域の資源」「愛着」「つながり」といった視点を持つことは大切である。
- ・「継承」と「深化」にあるように、次代につなげていく視点と変化を恐れず新しいことに挑戦していくという両方の視点がこれからの時代はより重要である。

### ②より良くするため（なると思われる）には

- ・「能動的」「主体的」「積極的」「前向き」はどれも違いがよくわからないので、シンプルに「みんな前向きに頑張っていこう」ぐらいのわかりやすい表現でよいと思う。

### ③その他

- ・「人と地域と自然のつながり」における自然とのつながりとは具体的にどういったものかイメージができない。
- ・あらゆる主体が積極的に、能動的にとあるが、今の豊田市は皆積極性がないということか。それが豊田市の課題であるのか。目指す姿ということは、豊田市「チェンジ」や「チャレンジ」が今はあまりできていないまちという評価をしているということか。課題が見えない。
- ・「チェンジ（変化）」「チャレンジ（挑戦）」と補足のように書くのであれば、変化と挑戦で十分通じるのでは。

## (3) まちづくりの基本的な考え方について

### ①良いと感じた点

- ・目まぐるしく環境が変わっていく時代なので、3つの「変える」を常に意識させるような視点をもつことはよいと思う。

- ・少子高齢化や市の財源など、様々な要因によりどんどん新しいものを作りあげる（特にハード面）ということは難しいと思います。そういった中で「あるものを生かす」という視点は非常に重要です。

#### ②より良くするため（なると思われる）には

- ・行政リードから多様な主体とあるが、行政がリードする部分やフォローする部分は残っていくはず（残すべきところもある）であるため、表現をもう少し柔らかくしたほうがよい（全体的に行政はもう何もやらないという印象を受ける）。
- ・「変える」という視点は必要だが、前提認識を変えることと多様な価値観を認め合うことは相反するようにも感じる。お互いの思い込みや前提認識と思える部分を理解し合うことにより、理解が深まるのではないか。言葉遊びのようになるので、もう少し単純に「様々な価値観を共有する」ぐらいの表現でよいのではないか。

#### ③その他

- ・チェンジやチャレンジ、変化が重要と言いながら「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」は8次総合計画と同じでよいのか。新しい視点は生まれなかったのか。
- ・めざす姿から発想の転換でまちづくりの基本的な考え方に進んでいるが、つながりがよくわからない。
- ・行政リードから多様な主体が楽しむまちづくりというのは、地域が自分たちで考えてやってくださいよ（市は知りませんよ）という理解でよいのか、地域に財源や権限を与えるので支所を中心としながら各地区でもっと頑張ってくださいという意味なのか。行政が手を引く感じの印象が強い。地域はすでに疲弊している。これ以上地域主体と言わないでほしい。
- ・まちづくりの基本的な考え方であるため、市民がもっと具体的にイメージしやすい表現にしないと同じ方向を向いて進むことができない。それぞれの説明に「つまりこういうこと」を示すべき。

### (4) 都市構造について

#### ①良いと感じた点

- ・豊田市は市域が広いので、鉄道等の交通機関や幹線道路を軸としながら市全体をつなげていくという考え方はよいと思う。

## ②その他

- ・前林も含め南部は人口も多く、力のある地域であると思う。しかし、核となるのは若林駅や土橋駅であり、前林を含め主要な駅がない地域に対してはどのようなビジョンを持っているのだろうか。市全体を示した計画であるためこうした表現になることはやむを得ないかもしれないが、そこに住んでいる住人にとっては、「私たちは見捨てられた地域か」という印象を与えるため、せめて補足の説明が必要ではないか。
- ・南部（特に前林）においては、生活拠点を二の次に物流企業や倉庫が乱立している状態である。えきちか居住エリアを考えるのは必要かもしれないが、都市構造にも名前が出ない「置き去りにされた地域」をどう立て直していくかの視点も必要ではないか。
- ・今後の展開で示されるのかもしれないが、「現在の各エリアの状況（地区単位が難しければ、せめて『北部』や『南部』など）や課題」「具体的にイメージしている拠点」「どの拠点がどのエリアをカバーするイメージなのか」「潜在的な拠点・今後拠点となり得る場所」などの表現もある程度具体的に示しておく必要があるのではないか。
- ・産業について、「インターチェンジ周辺等、利便性が高い地域への産業の集積」とあるが、まだ地域に工場や倉庫を押し付けるのか。生活機能の集積ともあるが、少子高齢化がますます加速する時代において、「生活基盤を整える」という点を今からもっと重視していくことが必要ではないか。
- ・移動について、交通ネットワーク強化とあるが、生活に必要な施設が少ない前林においては交通ネットワークの強化も急務である。言葉はきれいだ、具体的にどういったことイメージしているかある程度セットで示さないと様々な地域で憶測や妄想だけが膨らんでいってしまうのではないか。